

# 教育長だより



鹿児島県三島村教育委員会  
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県の教員として県内の小学校、鹿児島市教委主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で十年間離島教育に従事し、鹿児島県小学校長会長も務めた。

「新しい生活様式」を駆使しながら見えない敵と闘う。想像だにできなかったことが現実となり、学校教育も大胆な発想の転換が求められています。従来なら突破りといわれそうな裏技も、まな板に載せられて真剣に検討されています。いずれにせよ、学校の価値、有難さを再認識するとともに、教育に対する考え方を固定観念に囚われず根底から見直す機会ととらえ、前を向いて進むしかありません。

日本が出遅れているといわれる遠隔授業。私の村は、文科省の遠隔教育システム導入の委託を受けて実証研究2年目に入っています。それ以前も独自に遠隔授業に取り組んでいましたが、感染症予防に威力を発揮するとは思っていませんでした。これを機に遠隔教育は急激に加速していくと思われませんが、導入に当たりどんなハードルがあり、どんな工夫が必要なのか、この小さな村の実践も少しはお役に立てるように、実践上の具体的な助言ができたらと思っています。

ちょっと話が横道にそれますが、オーバーシュート、ロックダウン、クラスター、ソーシャルディスタンス、ウィズコロナ、アフターコロナなど、今年になって広く使われるようになった目新しい横文字。日本語を英語に変換するとき、なかなか適切な表現が見当たらない言葉があるように、英語にも日本語に置き換えるのが難しく、カタカナでしか表現しようがない言葉があります。また、新しい概念をもった言葉が出現したり、古くからあった言葉でもカタカナに言い換えると新しい言葉に生まれ変わったりすることもあるでしょう。単純に横文字になると格好いいという効果もあります。そんなことを考えていたら「新しい生活様式」という言葉があまりにも素朴な感じがして、「これは日本語なんだ!？」と面白く思ったわけです。確かに「ニューライフスタイル」よりも逆に新鮮なのか。

横文字のほかにも、政策を批判する際に「ブレーキとアクセルを同時に踏む」とか「冷房と暖房の両方をかける」という表現を耳にするようになりました。なるほど言い得て妙だなと面白く思いながらも、古くからの言い回しである「アメとムチ」とどう違うかなとふと考えました。正反対の効果を発揮する物を並べていますが、それを同時に使うか、使い分けるか、というところが味噌なんですね。同時に使うと混乱して役に立たないが、うまく使い分けると効果絶大。対立も否定も、捨てもしない。正にハイブリッド、アウフヘーベン（あ、これも横文字）。

閑話休題。限られた紙面で閑話が多くなってしまい本題について語るスペースがなくなっていました。従来の教育と未来型の教育とどう組み合わせるか。デジタルとアナログのそれぞれのよさをどのように生かすか。そんな話につなげたかったのですが、脇道に逸れたまま元に戻れない下手な現職時代の頃の授業のようになってしまいました。

本題の遠隔授業については更に次号で。



三島村の遠隔授業の様子